

講義名	国際経済論			授業形態	
担当教員	河口 和範	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

現在進んでいるグローバル化は、モノやサービスにとどまらず、資金、人、企業、業務、技術やアイデア、そしてデータといった、私たちの経済社会を構成するさまざまな要素の国境を越えた移動が活発になっていくことを意味する。このうちモノやサービスの越境移動は「国際貿易」と呼ばれ、資金や企業の越境移動は「国際投資」と呼ばれる。人の国際的移動は国際観光や留学のように一時的な場合もあるし、移住のように永続的な場合もある。このように、グローバル化はモノの貿易拡大を中心としつつも、その他の要素も巻き込んだ多層的なものとなっている。国際経済学は、価値を伝える経済活動を扱う応用経済学の一分野であり、伝統的にはミクロ経済学の分析枠組みを用いながら、主にモノの貿易を分析の中心に、その要因や貿易政策の影響を主要な分析テーマに掲げてきた。しかし、現代の国際経済学では、上述のような多層的なグローバル化の諸層を、経済学のある分析手法を駆使してその要因や影響を明らかにする学問となっている。本講義の主題は、伝統的な分析枠組みを踏襲しつつも、こうした現代的な国際経済学の視点も取り入れながら、グローバル化のさまざまな層を履修者の皆さんが理解できるように進めていく。

到達目標

本授業は、グローバル経済の諸課題について論理的に考え、分析手法を身に付け解決する技術を身に付けることができるようになることである。また、本学のディプロマ・ポリシーの「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の中でも、収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）、現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）、さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や採り取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）を習得することが到達目標である。

提出課題

理解度の確認のため期末試験のほか中間試験を3回行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験のフィードバックはその翌週の授業開始後に行います。

評価の基準

中間試験（理解度の確認試験） - 30点
 期末試験 - 60点
 授業への参加態度 - 10点
 中間試験と期末試験の合計点を中心に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

教科書を使用しますので購入は必須です。必ず購入してから講義に参加してください。「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」等の科目も併せて履修することにより、より理解度が深まります。

教科書	現実から学ぶ国際経済学.	伊藤萬里・田中勉 著	有斐閣	2200	9784641200012
-----	--------------	------------	-----	------	---------------

参考図書

現実から学ぶ国際経済学.					

その他

教科書の購入は必須です。
 PowerPoint資料はキャンパスクロスに提示します。

授業計画

- 第1回：イントロダクション 国際経済学は社会にどう役立つ？
 ガイダンス、本講義の目的や到達目標、授業の進め方、講義概要を解説する。また成績評価の方法などについて説明する。また国際経済学の社会に与える影響を説明します。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第2回：世界経済をデータでみる
 特に近年の国際貿易・投資を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。そのため一般的に利用可能なデータを使って様々な側面から世界経済を読み解いていく。
 予習：教科書17-49ページをよく読んでおく。またキャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第3回：グローバル化と保護主義
 20世紀以降の保護主義の歴史を振り返りつつ、保護主義の新しい展開にも目を向けながら、保護主義の要因に経済面に限らず政治的な要素があることを理解する。
 予習：教科書51-81ページをよく読んでおく。またキャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第4回：授業理解度の確認（中間試験）
 教科書の第1-第3回までの最後にある演習問題を解けるようにしておくこと。
- 第5回：企業のグローバル化
 人やモノが国境を越えるのみならず、企業も国境を越えた活動を行っている。企業は自社製品を外国に輸出したり、外国から部品を調達したり、外国に支店や子会社を設立したりして、生産費用を削減したり、市場を開拓したりしている。また、2020年2月に発生した新型コロナウイルス感染症が発生した際、人やモノの往来が事実上停止したことから、様々なモノの国産化の議論がなされた。それは経済学的にヨウ化できる評価できるか議論します。
 予習：教科書83-110ページをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第6回：技術が貿易を決める（リカード・モデル）
 比較優位やリカードの貿易理論、現実経済への応用を学ぶ。
 予習：教科書119-135ページをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第7回：生産要素が貿易を決める（ヘクシャー＝オリン・モデル）
 アメリカでは貿易や投資が拡大し、グローバル化が進んだが、国際貿易の資金格差拡大の主な要因を1980年代と2000年代を比較し、ヘクシャー＝オリン定理を用いながら理解する。
 予習：教科書137-158ページをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第8回：授業理解度の確認（中間試験）
 教科書の第5-第7回までの最後にある演習問題を解けるようにしておくこと。
- 第9回：規模経済性と貿易
 あるモノは技術水準の高さに基づく比較優位が働いているかもしれないが、比較優位がなくても特定の国に生産が集中し、貿易を引き起こす要因がある。また、貿易は異なる産業間で輸出が行われる以外にも、現業には同一産業内で輸出も輸入も同時に行われる場合がある。このような現象についてどのようなメカニズムで産業内の貿易が行われているかを理解する。
 予習：教科書159-179ページをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第10回：新・新貿易理論（メリッツ・モデル）
 メリッツ・モデルを中心に、企業レベルデータを多用した各国の研究によって、貿易や外国直接投資、外国生産委託を通じて国際化している企業は全企業のうちのごく少数であることが分かっている。では、そうした少数の企業のみが国際化を果たしているかを学ぶ。
 予習：教科書181-203ページをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）
- 第11回：授業理解度の確認（中間試験）
 教科書の第9回、10回の最後にある演習問題を解けるようにしておくこと。
- 第12回：貿易政策（基礎編）小国・完全競争
 日本では海外から輸入された多くの食料品がスーパーなどで販売されている。それでは輸入を制限することで、食料自給率を上げるべきであるという意見もある。そうした意見は経済学的観点から妥当であるかを取り上げる。
 予習：教科書207-227ページまでをよく読んでおく。キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標に挙げた通り、本学のディプロマ・ポリシーの「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の中でも、収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）、現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）、さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や採り取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）を習得することが到達目標である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員による一方的な講義ではなく、講義中に学生に質問しますので与えられた学生はその質問に答えられるようにしっかり予習を行って講義に参加してください。

実務経験の有無及び活用

備考
